

1 委員長挨拶

◆はじめに

はじめまして、第49回白門祭実行委員会委員長を務めております松澤瞭です。この『参加者必携本』には、白門祭で企画を実施するにあたり必要な手続きや、白門祭における注意事項が記載されていますので、紛失されないよう十分にご注意ください。

当冊子をご覧の皆様は、主に企画を実施される方々かと思いますので、企画実施にあたり事前に理解しておいていただきたい事項を紹介し、これをもって委員長挨拶とさせていただきます。

◆白門祭の理念

白門祭とは、前夜祭1日と白門祭4日の計5日間、総来場者数約5万人に及ぶ関東最大級の規模を誇る中央大学の学園祭です。学園祭は学生が主体となって作り上げる行事ですので、白門祭は「中央大学生の自主性」を基礎に、以下2つの理念を掲げて開催しています。

①『自治・文化活動発露の場』

かつて中央大学には、学生の表現活動の自由が大きく制約されていた時代がありました。このような背景から、白門祭は学生が日頃の活動の成果を表現し得る「文化活動発露の場」として存在しています。表現の内容は、手法、範囲ともに学生の自由な発想に基づく多種多様な企画を推奨しています。

しかし、自由は無制限であってはならず、これと表裏の関係にある責任を果たすことのできる範囲内で認められるべきです。当委員会では、白門祭で学生により表現される「文化活動」が、「自治」の範囲内であることを前提条件としています。

また、学生自身が責任を持って自らの手で自由な表現活動の場を作り上げるという側面から、白門祭は「文化活動」だけでなく「自治」をも「発露」する場であるといえます。

②『地域に根ざした白門祭』

我々中央大学生は、日頃から周辺地域の方々より様々な協力を得て大学生活を営んでいます。そのため、白門祭は日頃お世話になっている地域の方々に恩返しをする場としても存在しています。当委員会は、地域の方々との親密な関係の形成と、地域に対する還元活動を目標としています。

◆企画全面保障

上記理念から、原則として学生は「自治」が認められる限り自由に表現活動を行えるということになります。そのため、当委員会は、白門祭の根底にある「中央大学生の自主性」を尊重すべく、原則として「企画全面保障」の立場をとっています。ただし、企画の保障を受けるためには当委員会の規定に従って説明会に参加し、書類を提出していただき、参加団体総会に参加していただく必要があります。なお、例外的に実施が認められない企画については、p.10「実施に制限のある企画」を参照してください。

◆白門祭の理念に関わる事項

次に白門祭の理念に関わる事項として特に『飲酒』、『前夜祭』、そして『環境への取り組み』についてご紹介します。

①飲酒

2014年度の白門祭において発生した飲酒事故を受けて、大学より今年度以降の前夜祭及び白門祭期間中における学内全面禁酒措置が言い渡されました。我々白門祭実行委員会はこの事態を真摯に受け止め、第49回白門祭ではこれまで行われてきた「酒類提供企画」を実施せず、前夜祭・白門祭において大学構内での飲酒行為並びに酒類の持ち込みを全面禁止することといたしました。

2000年度の白門祭までは、前夜祭も含めて全面的に飲酒が可能でした。しかし同年に発生した飲酒事故は、150名程度が泥酔状態に陥ってしまい、多摩地域中の救急車が中央大学に集まるという惨状となってしまいました。これによって、大学から一度は全面禁酒措置を受けましたが、協議を重ねた結果、2002年度から前年度まで続いた「酒類提供企画」という形で白門祭での企画内容選択の自由を保つことができていました。

全面禁酒措置は、表現活動の自由及び「中央大学生の自主性」を阻害するものとして、本来ならば許されるべきではありませんが、今までに起きた数々の飲酒事故の蓄積により、白門祭での飲酒行為は「自治」の範囲外のものとして判断されるに至りました。そのため、白門祭の理念に照らしても、この措置を受け入れざるを得ませんでした。

今年度、当委員会は「学内飲酒ゼロ」の達成を目指します。白門祭での飲酒に関する学生の「自治」を回復するためには、学生自身の責任のもと、飲酒行為に対する適切な姿勢を示さなければなりません。各々の節度ある行動が要求されます。

②前夜祭 —『大学24時間開放』を目指して—

現在、中央大学は朝8時から夜23時までしか解放されておらず、学生の自由な表現活動はその分阻害されていると言えます。そこで当委員会は前夜祭を起点として、大学の24時間完全開放を目指しています。

以前の前夜祭は、白門祭の準備日として位置づけられるにとどまり、実質的に完全開放されているとはいえませんでした。しかし、2008年度より前夜祭が大学側から公認化され、一般中央大学生による企画の実施が可能となりました。これを機に前夜祭ひいては白門祭を盛り上げるような企画を実施していただき、ぜひ、前夜祭を「自治・文化活動発露の場」としてご利用ください。

③環境への取り組み

かつて白門祭では、来場者や学生によって捨てられる大量のごみの処理について対策を行っていなかったため、大学構内にはごみが散乱していました。さらに、ごみの分別、回収を大学側に任せていたため、ごみの処理について学生の「自治」を達成することができていませんでした。

こうした状態を改善するために、学生の手でごみを分別、回収する「エコステーション」を2007年

に設置しました。しかし、これによってごみの散乱状態は多少改善したものの、未だ完全なものとはいえませんでした。

そこで、2011年度から当委員会の管理のもと、「エコステーション」と併せて構内に設置してあるごみ箱でもごみの分別、回収を始めました。これ以降、ごみの散乱状態は大幅に改善されました。

また、大量のごみが捨てられる白門祭では、環境に与える負荷も多大なものとなります。そのため当委員会は、2008年度より「エコ容器」を導入し、さらに2013年度からは「廃油回収」を開始するなど環境配慮への取り組みを進め、環境にやさしい白門祭を目指しています。

◆終わりに

最後になりますが、今年度の第49回目を迎えるまで白門祭を開催することができたのは、参加団体の皆様にこれまでの大学生活で培ってきた成果を披露していただき、かつ、それを見に来る来場者の方々がいたからに違いありません。厚く御礼申し上げます。白門祭での表現活動が皆様の更なる発展の糧となれば幸いです。

また、ご存知ない方も多いかと思いますが、白門祭実行委員会は全中央大学生によって構成されています。責任ある白門祭実行委員会の一員として共に白門祭を作り上げる側にいるということを皆様にも意識していただきたいと思います。

当委員会は皆様の企画の成功に向け、全力でサポートします。日頃の成果を披露する最良の場となるような白門祭を共に作り上げましょう。

中央大学白門祭実行委員会

委員長 松澤 瞭